

環境事業団 P C B 処理技術懇談会  
処理技術グループ会議議事要旨

1 開催日時 平成 13 年 8 月 8 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 00

2 開催場所 環境事業団 第 1 会議室

3 出席者 : 永田座長、酒井委員、田中委員、森田委員

4 議題 : ( 1 ) P C B 処理技術について  
( 2 ) ヒヤリング等により整理すべき課題について

5 概要

各議題について、事務局より資料に基づき説明、主な意見は次のとおり。

( 1 ) P C B 処理技術について

- 個々の P C B 処理システムに関する処理フローについて、同じ工程でも記載の仕方に濃淡があるので、表現を統一しておくこと。
- 水熱酸化分解、還元熱化学分解のいずれの処理方式も、連続処理を前提としているわけではなく、バッチ処理も可能であるので、連続処理に限定されるような記述は避けるべき。
- 処理方式を比較検討する際には、安定した運転操作ができるか、不測の事態に対応できるかが重要なポイント。

( 2 ) ヒヤリング等により整理すべき課題について

以下の意見を踏まえて、ヒヤリングの具体的な内容を、座長と相談の上、事務局で整理し、各委員の確認を得て、対象企業 (グループ) に依頼することで了解。

- 処理対象とする P C B 廃棄物の種類や量、処理期間などの、検討の前提条件を具体的に提示することが必要。
- 全体コストを押し上げる要因は、反応設備そのものではなく、むしろその周辺の安全対策や環境対策にあり、これらをどの程度見込んでいるかを把握することが必要。
- 実証試験から実用化に向けて、各メーカーでは様々な経験を積んでいるはずであるが、そのあたりの情報が十分得られていない。これまでに取り組んできた課題と、どのようにこれを克服してきたのか等の情報を一度全部出してもらうことが必要。
- 検討対象とする処理の境界について、P C B 卒業判定基準を満たすまでの処理段階と、卒業後の残渣の処理までを含めた二つの段階に分けて整理し、後者についてもできるだけ具体的な情報を出してもらうことが必要。
- 処理システムの維持管理に必要な人の問題も重要であり、法令上、施設に設置が必要となる資格者についても整理すべき。
- これまであまり検討されていないようだが、施設内での前処理、荷さばき、搬送等も重要な工程であり、参考情報としてヒヤリングの対象とすべき。

6 今後の予定

次回は、次の日程でヒヤリングを行うことを確認。

・処理技術グループヒヤリング（非公開）： 8 / 23（木） 10:00～17:00 於環境事業団

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部 処理技術室 03-5251-1038